



良き企業市民として社会に貢献するとともに、地域社会と良好な関係を作り上げます。

2005年度注力ポイント

- NPO/NGOとの協働による国内外での貢献活動
- 「OKI愛の100円募金」の取り組み強化

2005年度の主な取り組み

- 森林ボランティアの拡大 (P9参照)
- 「OKI愛の100円募金」の仕組みの改善

社会貢献の基本理念と活動体系

沖電気グループは、1964年に日本初の企業集団献血を実施したほか、重度障害者の在宅勤務(1998年)や骨髄バンクのドナー登録(2001年)にもいち早く取り組むなど、社会貢献活動において“3つのパイオニア”としての歴史を有しています。

こうした歩みを背景に、1996年には「社会貢献推進室」を設置し、同年に制定した基本理念・基本方針に基づき、寄付や保有施設の開放、社員のボランティア活動支援など、社会貢献活動を組織的に推進しています。社員のボランティア活動には、月々の募金による寄付型の活動と、社会福祉や環境保全などに関連する参加型の活動があります。また、より幅広い活動を行っていくために、各種の非営利組織(NPO)と広く交流・協働しています。

社会貢献活動 基本理念・基本方針

基本理念

良き企業市民として真に豊かな社会の実現に向けて、考え、行動し、共感を得る社会貢献活動を実践する。

基本方針

[会社の活動]

- 会社の資源(人材・資産)を活用し、地域や国情に合った社会貢献活動を継続する。
- 社員が誇りと活力を実感し、また企業イメージを高める冲らしい社会貢献活動を志向する。

[個人の活動]

- 社員一人ひとりの人間性の発露としてのボランティア活動を推奨し、支援する。

スローガン

できることから始めよう!

寄付型ボランティア活動「OKI愛の100円募金」

●より安定した運用と活動の拡大をめざし仕組みを改善

沖電気グループは社員の寄付型ボランティア活動として、毎月100円の募金を集める「OKI愛の100円募金」を実施しています。誰もが気軽に参加できる社会貢献活動として1996年に沖電気でスタートし、2000年からは対象を沖電気グループ社員へと拡大しました。

2006年3月には、より安定した運用と活動の拡大をめざし、一口を100円として一人最大3口まで寄付額を選択できるよう制度を変更しました。

2005年度末現在、活動の主旨に賛同する沖電気グループ34社の社員が参加しています。

「OKI愛の100円募金」2005年度活動実績

日本赤十字社への献血運搬車寄贈	297万円(マッチングギフトによる総額)
難民キャンプなどへの古着支援	113万円
重度障害がある方の就労支援	200万円
社員が関わりをもつボランティア団体の支援	297万円(25団体を支援)

●日本赤十字社へ献血運搬車を寄贈

沖電気グループは、企業献血活動のパイオニアとして、日本赤十字社の血液事業を支援しています。1996年からは「OKI愛の100円募金」の募金総額に会社が同額を上乗せするマッチングギフトの手法を活用して毎年、献血運搬車などを寄贈しています。

2005年度は、長崎県赤十字血液センターに対して保冷庫付きの献血運搬車を寄贈しました。



献血運搬車の贈呈式

● 難民キャンプなどへ古着を送付

沖電気グループは2001年度からNGO「わかちあいプロジェクト」による難民支援活動の一つ「古着支援活動」に参加し、全国のグループ拠点で収集した古着を海外難民キャンプなどへ送付しています。

2005年度は、段ボール箱463個分の古着をタンザニア、エリトリア、インドネシアに送りました。グループ拠点から集荷拠点までの宅配便代と海外輸送費を、「OKI愛の100円募金」から拠出しています。



社員ボランティアによる梱包作業: 沖ソフトウェア(株)北海道支社(左)、沖電気グループ蔵地区(右)

● 重度障害がある方の就労を支援

沖電気グループは、社会福祉法人東京コロニーの「トコロ情報処理センター職能開発室」が推進する「SOHO支援事業」を、「OKI愛の100円募金」により支援しています。

同事業は、重度の障害があり通勤が困難な方の自立をめざし、SOHO(在宅勤務)グループを結成してソフトウェア関連業務の実施をサポートするものです。沖電気グループは、SOHOグループのリーダー育成や技術教育、業務に必要な設備整備などを資金支援しています。

● 社員が関わりをもつボランティア団体を支援

沖電気グループは、ボランティア活動を行っている社員の申請に基づいて、社員と関わりをもつボランティア団体に「OKI愛の100円募金」による資金援助を行っています。

2005年度は、NPO「ラオスのこども」による児童書の現地出版(2006年2月)に国際交流基金と共同でスポンサー協力するなど、計25団体を支援しました。



ラオスで出版された児童書『人魚がくれたさくら貝』

2005年度から新たに支援を開始した団体

日本聴覚障害者建築協会(AAJD)	ユニバーサルデザインによる聴覚障害者のための緊急カード(SOSカード)作成を支援
(財)トロロのふるさと財団	狭山丘陵のナショナルトラスト活動を支援
(特活)エル・エンジェル国際ボランティア協会	インドの学校施設整備や孤児院設立・運営を支援
青森LD親の会「こんべいとう」	ボランティアの確保や学習会・講演会開催を支援

NPOとのコミュニケーション

● 「NPO活動報告会」を実施

沖電気グループはNPOの活動に対する社員の理解を深め、コミュニケーションを促進していくために、毎年「OKI愛の100円募金」で支援しているNPOの中から2団体を招いて「NPO活動報告会」を実施しています。

2005年度は、視覚障害者などのパソコン利用をサポートする「UNDO(アンドゥ)」と、地域の障害のある子どもたちのためにイベントを企画・実行する「ひよこボラ」を招いて活動報告を行いました。



「UNDO」の平賀さん(左)と脇田さん(右)



「ひよこボラ」の小酒さん

参加型ボランティア活動

●「全国学校ビオトープ・コンクール2005」発表会を支援

沖電気グループは2001年から、優れた環境教育である「学校ビオトープ※」を支援しています。

その一環として、2006年2月11日に国立オリンピック記念青少年総合センターで行われた「全国学校ビオトープ・コンクール2005」発表会（主催：（財）日本生態系協会）の様子を仙台と徳島のグループ拠点に生中継し、発表会に参加できない代表校の子どもたちや保護者の方々、約40名に視聴いただきました。当日は、16名の社員ボランティアが発表会場側のスタッフとして参加したほか、中継先の拠点にもボランティアスタッフが待機し、沖電気のライブ映像配信システム「LiveOnAir」を用いて発表や表彰の様態を配信しました。撮影した映像は、学校ビオトープの普及にも活用されます。

※ 学校ビオトープ：
自然の仕組みや自然と共存するための知識および技能を体験的に学習する取り組み。



ライブ映像を仙台・徳島に配信

●2005竹とんぼ大会を実施

2005年11月、東京都内にある3つの児童養護施設の子どもたち17名を招待し、府中市郷土の森博物館で「2005竹とんぼ大会」を実施しました。沖電気グループ社員6名

を含むボランティア14名が参加し、国際竹とんぼ協会の皆様の指導により竹とんぼをつくって飛ばしたほか、「江戸糸あやつり人形」の協力によるあやつり人形の作成や公演鑑賞など、子どもたちとともに楽しい1日を過ごしました。



竹とんぼ手づくり体験の様子

●ラオス語絵本をつくって現地に寄贈

沖電気グループは毎年7月、NPO「ラオスのこども」の協力を得て「ラオス語絵本をつくってラオスの子どもたちに送ろう!」というイベントを実施しています。2005年



ラオス語絵本づくりの様子

度は、沖電気グループの社員と家族、「ラオスのこども」の研修旅行に参加する学習院女子大学の皆さんなど計22名が参加し、日本語の絵本にラオス語の翻訳を貼って、6種類50冊のラオス語絵本を完成させました。

●第4回「ワンモアライフ勤労者ボランティア賞」を受賞

群馬県高崎地区の沖電気グループの社員有志が結成したアマチュアジャズバンド「ディキシークイーンズ」は、“音を楽しむ心を、健常者・障害者を問わずすべての人たちに伝える”ことを目的に、ボランティアの演奏活動をしています。児童養護施設、老人福祉施設、児童館、障害者施設、小学校への訪問や地域イベントへの出演など、1990年の結成以来、100回以上の演奏活動を行いました。レパートリーもディキシーランドジャズからポップス、童謡、懐メロまで多岐にわたります。

社員の趣味を活かしたこれらのユニークな活動が評価され、2006年1月には、厚生労働省「勤労者マルチライフ支援事業」による第4回「ワンモアライフ勤労者ボランティア賞」を受賞しました。



「生涯学習ボランティアの集い」での演奏
(2005年12月)



「ワンモアライフ勤労者ボランティア賞」贈呈式

地域社会とともに

●「中央区フィランソロピー懇談会」の地域活動に参加

沖電気関西支社は、大阪市中央区の11企業・4団体で組織する「中央区フィランソロピー懇談会」に2001年から参加しており、地域貢献活動の企画・推進やボランティア活動を行っています。



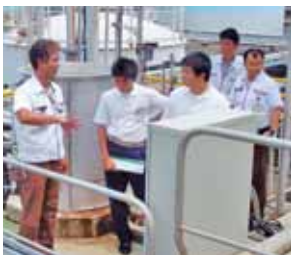
社員がサポートしたショー

2005年12月に開催された中央区社会福祉協議会との共催による「第6回企業市民セミナー」では、「社員の立場で考える企業の社会貢献活動」をテーマとした討論に社員がパネラーとして参加しました。また、第二部として行われたNPO「まんぼう」(知的障害者作業所)による「爆笑まんぼうショー」では、11名の社員ボランティアがショーをサポートしました。

●インターンシップで環境教育

宮崎沖電気(株)は、2003年度から、地域の中学生や高校生を対象にインターンシップ(就業体験)を実施しています。

2005年度は7回実施し、計262名の皆さんが工場見学やプログラム学習、クリーンルームでの実作業などを体験しました。また、環境ISOに関する説明や、排水施設、コージェネレーションシステム、自然エネルギーを利用した発電の仕組みなど、工場設備の見学を通じて、いま企業がなぜ地球環境の保全に取り組むのか、具体的にどのような取り組みがなされているのかなどを紹介しました。



工場見学や実作業体験を行うインターンシップ



●各地で清掃活動を実施

沖電気グループの全国各拠点では、地域の清掃活動に積極的に参加しています。

宮城県仙台市では、2005年9月に沖電気東北支社をはじめ市内の沖電気グループ社員とその家族70名

が、東北楽天ゴールデンイーグルスのホームグラウンドである「フルキャストスタジアム宮城」の清掃を実施しました。



スタジアム客席の清掃活動

●「OKI蕨文化彩」を開催

埼玉県蕨市の沖電気システムセンターでは、毎年「OKI蕨文化彩」を開催し、社員の家族や地域住民の皆様に施設を開放して交流を図っています。

2005年度は地域の皆様1,800名を含む2,200名をお迎えし、「お父さん・お母さんの職場見学会」やフリーマーケット、各種アトラクションなどを実施しました。

また、より良い街づくりに協力する機会として、蕨市消防本部および蕨警察署の協力のもと、はしご車体験などを実施しました。



消防士の姿ではしご車体験

社員の声



関西支社
山口 修

沖電気は、創業120周年を迎えた2001年に、社会貢献活動の全社テーマとして「社員の年1回ボランティア活動参加」を掲げました。関西支社でもこれを機に「中央区フィランソロピー懇談会」に加入し、多くの社員がさまざまな地域貢献活動に参加しています。5年間の活動の中では、企業の社会貢献活動が地域の要望に必ずしも応えておらず、ややもすれば「ひとりよがりの活動」になっているのではないかと感じることもありました。今後は、地域の皆様とのコミュニケーションをより深めながら、本当の意味で地域に密着した貢献活動をめざしていきたいと考えています。

「ボランティア」の推進

お客様満足の上昇

株主・投資家への情報発信

社員の専重

環境への対応

社会貢献